

「めざそう値」の達成度等の点検評価

「那覇市立図書館」運営の基本的な考え方の点検評価基準（別紙 3）に基づき、「施策（事務事業）の進行管理チェックシート」（別紙 4 - (1)(2)参照）を活用して、「めざそう（目標）値」の達成度や評価の観点ごとの点数・コメント及び総合評価点数等を踏まえて、那覇市立図書館協議会委員で外部評価した。

点検評価事務事業（2018年度分）

	課 題	施策名	事務事業名	指標名
1	I -1 障がい者サービスの充実	I -1-(1)デジター図書の充実	1.デジター図書購入・貸出の推進	デジター図書蔵書数 デジター図書貸出数
2	I -2 利用者サービスの充実	I -2-(1)資料・情報提供サービスの充実	2.資料・情報提供サービスの推進	貸出冊数、来館者数、有効登録者数、予約件数、リクエスト件数、レファレンス件数、ホームページアクセス件数
3	I -3 青少年に対するサービスの充実	I -3-(1)中学生・高校生の読書活動の充実	3.中学生・高校生の読書活動の推進	年齢別(13歳～18歳)の貸出冊数
4	I -4 郷土資料の充実	I -4-(1)郷土資料の充実	4.郷土資料整備事業	郷土資料受入冊数
5	II -1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の育成	II -1-(1)図書館職員研修の充実	5.図書館職員研修(初任者、レファレンスサービス等)の実施 6.他団体主催研修への参加促進	研修会の開催数 他団体主催研修への参加数
6	II -1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の育成	II -1-(2)図書館職員体制の充実	7.図書館職員体制の検証	正規職員の司書有資格者数
7	IV -1 読書推進のための学習機会の充実	IV -1-(1)各種講座、おはなし会等の主催事業の充実	10.地域の特性を生かした読書会、おはなし会、講座、上映会等の主催事業の開催	参加者へのアンケートによる満足度 図書館職員による読書活動実施数 おはなしボランティア養成講座数
8	IV -1 読書推進のための学習機会の充実	IV -1-(2)図書館関係団体(ボランティア団体等)との協働による取り組み強化	11.おはなしボランティア団体によるおはなし会・交流会の開催	おはなしボランティア団体による定例おはなし会の開催数 おはなしボランティア団体による交流会の開催数

施策(事務事業)の進行管理チェックシート ①

[illegible]

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	2	C	蔵書数は目標値を達成した。貸出数は前年度実績を下回った。学校図書館への周知については年度初めに司書研究会へ出向き周知を行ったが、なかなか貸出に結びつかなかった。
	今後の方向性	4		これまでデージー図書の案内を年度初めの司書研究会等で行ってきたが、小中学校の特別支援学級担当者研修会の場も活用し、デージー図書の利用方法などについて周知していきたい。また福祉部門の部局にも情報を提供していく。

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合評価	外 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	2	C	・ 蔵書数が増えて利用者の選択肢が増えたことは評価できるが、貸出数が減ったことは残念であり、デージー資料の認知度及び利用度については、なお相当に不十分である。 ・ デージー図書の有効性や活用方法を紹介する機会を増やすことが必要。司書研究会での説明だけで終えてしまったことが原因ではないか。 ・ 小中学校の特別支援学級担当者研修会の場の活用は素晴らしいが、学校を窓口とした周知活動の比重が高く見える。
	今後の方向性	4		・ 前年度同様、特別支援学級担任への情報提供をしていただきたい。読書離れしやすい読字障害の子らが学校を通じて、デージー図書の貸出しを受け、親しむことができれば、卒業後・成人後の図書館利用につながると思う。 ・ 県立那覇特別支援学校教員、市内小中学校特別支援学級担当教員などのように、具体的に焦点を絞り、周知活動をダイレクトに展開して良いのではないか。 ・ 身体障がい者手帳発行の窓口となっている「障がい福祉課」にパンフレットを配置してもらうことなど、「こどもみらい課」「学校教育課」「子ども発達支援センター」などの行政サイドへも働きかけてみてはどうか。 ・ 老人ホーム、福祉関係施設や児童デイサービス等、視覚障害者だけではなく、想定される実際の利用者が集う場での周知に努めてほしい。 ・ デージー図書の活用方法についてわかりやすい資料をホームページ等にのせてはどうか。 ・ デージー図書を活用している方の意見や活用方法などを周知していくべきではないか。

施策(事務事業)の進行管理チェックシート ②

点検評価の対象年度		平成30年度		別紙 4-(1)									
課 題		I -2利用者サービスの充実						主管 部課		教育委員会			
施策名		I -2-(1)資料・情報提供サービスの充実								生涯学習部 中央図書館			
事務事業名		2.資料・情報提供サービスの推進											
施策 (事務事業)	施策の概要等	公共図書館における利用者サービスを充実させるため、図書館奉仕の基本的なサービスである資料・情報提供サービスを推進する。 関連法令等 ○図書館法 <第三条第一項第一号> 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルムの収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料(電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。))を含む。以下「図書館資料」という。)を収集し、一般公衆の利用に供すること。 <第三条第一項第三号> 図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすること。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二 一 3 (一) 貸出サービス等 市町村立図書館は、貸出サービスの充実を図るとともに、予約制度や複写サービス等の運用により利用者の多様な資料要求に的確に応えるよう努めるものとする。 (二) 情報サービス 1 市町村立図書館は、インターネット等や商用データベース等の活用にも留意しつつ、利用者の求めに応じ、資料の提供・紹介及び情報の提示等を行うレファレンスサービスの充実・高度化に努めるものとする。 2 市町村立図書館は、図書館の利用案内、テーマ別の資料案内、資料検索システムの供用等のサービスの充実にも努めるものとする。 3 市町村立図書館は、利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレファレンスサービスの実施に努めるものとする。											
		実際の成果・効果等 来館者数は450,954人と目標値及び前年度実績ともに下回った。貸出冊数は前年度を上回ったが、目標値には若干届かなかった。リクエスト件数は目標値及び前年度実績を上回ることが出来た。7つの指標のうち、5つの指標で目標値に達することができなかった。											
事業に要した経費等		平成30年度の図書館に関する決算額(正規職員の人件費を除く)は143,421千円。 図書資料費は31,589千円(内訳新聞、雑誌等6,056,110円、一般児童図書等23,535,304円、郷土図書1,997,696円) 図書館コンピュータシステム経費:年間10,409,666円											
指標名・目標値・実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	
	貸出冊数	1,095,000	1,082,860	1,049,897	予約件数	163,700	152,392	152,233	レファレンス(調査相談)	1,000	1,012	1081	
	来館者数	465,000	450,954	461,326	リクエスト(希望図書購入)件数	(購入冊数)800	1046	991	ホームページアクセス件数	241,500	237,494	206,066	
	有効登録者数	32,525	23,041	23,114		(受付冊数)1,000	1,297	1,214					

	評価の観点	評価	総合評価	内 部 評 価 コ メ ン ト
点検評価 (内部)	達成度	3	C	リクエスト(希望図書購入)件数、レファレンス(調査相談)件数は目標値を上回ったが、ほかの5つの指標が目標値に達しなかった。ホームページアクセス数は前年度より31,428件、貸出冊数は前年度より32,963冊、予約件数は前年度より159件増えたが、いずれも目標値に達しなかった。来館者数が減じた要因として、システム入れ替えの為に全館一斉に15日間休館した点と県立図書館の移転により県立図書館駐車場が使用できなくなり中央図書館の来館者が減じた点が挙げられる。
	今後の方向性	3		市立図書館全館の利用者数を増やす取り組みとして、小中学校の学校図書館だよりを通じて児童生徒へ市立図書館の開館時間や場所の地図の広報を協力依頼した。また、図書館HPを新しく構築し、市民によりわかりやすい情報提供を随時行っている。今後もおはなし会や毎月の特集、夏休みや読書週間の行事等図書館サービスの向上に努め、魅力ある図書館サービスに取り組んでいく。

	評価の観点	評価	総合評価	外 部 評 価 コ メ ン ト
点検評価 (外部)	達成度	3	C	・ システムの入替えによる休館や県立図書館の移転、それに伴い駐車場が利用できなくなったなどの背景はあるが、この数年の減少傾向は気になる。より厳密な原因・理由の分析と対応策の検討を行い、具体的で有効な方法を他市町村の例も参考にしながら取り組む必要がある。 ・ 目標を下回っている項目もあるが、リクエストやレファレンスなど図書館の根本的なサービスが増えていることは評価できる。困ったときに図書館に相談したり、必要な情報を取り寄せる取組が周知されていることは良いことだと思う。 ・ 来館者数は減っているが登録者あたりの年間貸出数は増えているので、おはなし会や行事などの工夫は是非続けていってほしいと思う。
	今後の方向性	3		・ 来館者数の増加をめざすために、図書館現場レベルでできる対策案としては全年齢層を対象とするより、順次ターゲットを絞って各層のニーズに答える具体策を達成することで来館に結び付ける工夫の方が着実性があるのではないかな。 ・ 駐車場が今後でも確保できないのであれば、モノレール沿線または、駐車場を確保しやすい場所への移転を検討できないか。バリアフリー化が求められる現代に即して対応が必要と考える。 ・ 小中学校の図書館だよりへの掲載は、事前に内容や時期などを学校図書館側(学校司書)と調整するとよりよい取組になると思う。今年度は発行後に依頼されて対応できなかった学校が多数あったのではないかな。 ・ 小学生は学校図書館の利用がどの学校でも多く、公共図書館を利用することにも興味を持っている子が多いと思われるので、小学生やその保護者向けへの働きかけ次第でさらなる増加が可能だと思われる。 ・ 子どもページやEnglishページなどメニューは存在するがコンテンツがないページがある。また、Twitterにしても若狭・繁多川以外の投稿数が少ないので、現在あるものをきちんと充実させていくことがまずは急務だと思う。 ・ 分館それぞれの特色を効果的に周知、活用し住民の身近な存在になれるようにしてみようか。

施策(事務事業)の進行管理チェックシート ③

別紙 4-(1)

[illegible]

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	3	C	平成30年度はYA世代への働きかけとして、中央図書館では夏休みに中学生対象の講座「感想画を描こう」を開催した。また首里図書館は首里中学校と連携し「本のおすすめPOP展示」を実施した。石嶺図書館は石嶺中学校と連携し「地域の図書館を活用しよう!」という取り組みを実施した。中学生に足を運んでもらうような取り組みを工夫しているが、貸出数にはなかなか結びついていない状況である。
	今後の方向性	3		小中学校の学校図書館の図書館だよりに那覇市立図書館の場所の地図と開館時間の案内を掲載依頼し、協力いただく取り組みを始めた。中高生の声を活かした図書館サービスの向上に努める必要がある。

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合評価	外 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	3	C	・ 直接の貸出には繋がらなかったもののYA向けの事業は工夫されている。事業の効果はすぐに出るものではないので、継続して行い将来の安定した利用に繋がると良いと思う。 ・ 中学校との連携は評価できる。まずは、図書館に足を運ばせる取り組みが必要ではないか。 ・ 自習室がなく、YA世代が本を借りるためだけに図書館に行くことはないと思われる。YA世代にとって、なろう系(ライトノベル投稿サイトおよびそこから書籍化したもの)など彼らにとって読みやすいものがネットで読める環境にあることも一因だと思う。 ・ 中学校と連携した取り組みを行った首里・石嶺図書館では13歳～18歳の本の貸出冊数が増えていて成果が伺える。
	今後の方向性	3		・ 子どもの数の減少などを考えると目標値の設定が適切かどうかは検討した方がよい。 ・ 連携する中学校をもっと増やしてはどうか。中高生に向けてホームページでそのような内容をあげて図書館に行きたくするようなしかけを作ってはどうか。 ・ 図書館だよりへの取り組みは大いに評価できる。「こんな図書館ならぜひいってみたい」というような、中高生の生の意見を聞く機会を設けて取り入れていく必要がある。 ・ 図書館だよりによる周知を呼びかけるのであれば、依頼する時期の検討もふくめ、事前調整は必要。学校図書館と公共図書館で年に数回、YA(児童書)の人気の本などの情報交換(メールで可)を行ってはどうか。 ・ 図書館の地図を配布するのは良いと思うが、あの地図で子どもたちが(または現在利用していないご父兄が連れて)行くのは無理があると思う。例えば、最寄りの図書館だけでよいので、少し詳細な地図がある方がいったことがない層には有効ではないか。 ・ YA世代のニーズを正確に把握しているか。さらにYAだけでなく児童・生徒向けの資料選択・構成についても見直しが必要ではないか。これまでの公共図書館では「コミック」の受け入れは不可という考え方だったが、いわゆる「学べるマンガ」というコミックについては導入しても良いのではないか。また、学校図書館で毎年「人気トップ10」に入るタイトルなどは、積極的に備えても良いのではないか。

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ④

[illegible]

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	3	B	平成29年度実績より170冊減となったが予算は同額であり、ほぼ同水準といえる。
	今後の方向性	4		貴重な資料を市民が手に取る機会を作ることも図書館の役割のひとつであるので、冊数維持にとらわれず良質な郷土資料を受け入れていく必要がある。平成30年度で交付金の活用が終了したため令和元年度は予算が大幅に減額しているが、今後もより良い資料収集に努め、寄贈資料の受入も積極的に行いながら、郷土資料の充実を図る。

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合評価	外 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	3	B	・ 郷土資料が継続して積極的に収集・整備され、活用されていることは評価できる。 ・ 予算が同額で冊数が減ったことに関しては、とても良いことだと思う(廉価な本で冊数を稼ぐ必要はないと思う。) ・ 冊数よりも中身を評価できると良いと思う。 ・ 交付金の活用終了に伴う資料購入費の減額や資料整備の遅れが心配である。
	今後の方向性	4		・ 令和元年度の予算が減少しているということで、寄贈を視野に入れているが、必要な資料を確実に集め、既に収集している資料の維持管理、活用を検討するとよいのではないかな。 ・ 今後予算が少なくなる中、どれを購入するか取捨選択はとても難しいものになると思うが、しっかり見極めて充実させていってほしいと思う。 ・ 予算減の状況や、永年保存のため書架スペースの確保などの状況から、分館毎に分類やジャンル毎に資料収集を分けてはどうか。また、それによる特色へと結びつけていってはどうかな。 ・ 埋もれた地域郷土資料の発掘や市民からの寄贈を促すためにも、「図書館における郷土資料収集の内容と重要性」を、さらに積極的に那覇市民に周知する必要があるのではないかな。 ・ 小中学生が使える資料がたくさんあることを子ども達はもちろん、先生方にもより知ってもらう必要があると考える。

施策(事務事業)の進行管理チェックシート ⑤

[illegible]

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	5	A	目標を達成。現任職員研修については、職員の要望等から、日々の業務のなかで求められていることを研修内容とした。他団体主催研修への参加も増え、市民ニーズに対応するための能力や知識、専門的職務遂行能力を高めることができた。
	今後の方向性	4		市民ニーズや社会環境の変化に対応した質の高い図書館サービスを提供するため、今後も計画的な研修を継続して実施する。他団体主催の研修へも積極的な参加を促していく。

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合評価	外 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	5	A	・ 目標を達成しているのはよい。職員がたくさんの研修に恵まれスキルアップになると思う。是非これからも継続してほしい。 ・ 図書館職員の実務ニーズに対応した研修の実施は、職員個人のスキルアップを通して図書館サービスの向上に直接繋がるので大変評価できる。 ・ 他団体主催の研修を受けることはとても素晴らしいことだと思う。ぜひ今後の業務に生かしてほしい。
	今後の方向性	4		・ 研修内容は実務レベルのものだけでなく、社会変化に伴う公共図書館の新しい機能・役割や、司書が備えるべき新しい図書館サービスの考え方など、生涯学習社会の中での公共図書館という、大きな視点で「新しい図書館観」を持つような内容も必要である。 ・ 他市の特色ある取り組みも参考にできるような研修も必要ではないか。また、現在の研修会とは別に司書資格保有者を対象としたより専門的な研修会の機会を増やしてはどうか。(年に1回でも良いので) ・ 他団体主催と言いつつ、県立図書館や県主導のものが多く。予算の都合もあると思うが、県外の図書館関係者と交流を持つ機会もあると刺激になると思う。 ・ 今後も必要な研修を受けていくことで、サービスの質があがると考えられるため、継続を望む。 ・ 職員のスキルアップはサービス向上に確実に繋がるため積極的な参加を目指すのは大変評価できる。

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ⑥

[illegible]

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	5	A	各館に司書を配置し、目標を達成している(繁多川図書館は一部業務委託)。
	今後の方向性	4		継続して司書を配置し、図書館職員体制を維持する。専門的な知識・技術を発揮し、職員の育成、図書館サービスの充実を図る。

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合評価	外 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	5	A	・ 目標達成は評価できる。今後も司書の配置は死守していただきたい。 ・ 委託業務でも、質を落とさないためにも、司書の配置を検討してほしい。 ・ 図書館の規模(利用者数、貸出数)が倍以上差があっても職員数にそこまでの差が見られない。運営上最低限必要な人員数というものがあるのかもしれないが、規模の大きい館はそれでスムーズに運営できているのか少し心配。
	今後の方向性	4		・ 司書資格保有の本務の人数が各館1人ずつというのは妥当な人数なのか。図書館現場での職員数は、実務処理との関係で評価される必要があるのではないか。各職員担当の業務、さらに図書館としての企画・イベントなどの臨時担当など実際の仕事量が、どの程度各職員に課されているのか。職員数と実務量はバランスがとれているのか。職員の疲労・ストレスは貯まっていないか。現場の非常勤職員のいわゆる「サービス残業」で維持されていないか。職員数は現場レベルで現実的に業務を把握し検討する必要がある。 ・ 本務司書職員数を増やしていけるともっと良いと思う。 ・ カウンター要員に司書がいない館があるのが気になる。直接サービスは図書館の要なので是非司書採用を検討してほしい。 ・ 司書の力を存分に発揮して「行きたくなる図書館」になるよう今後も頑張してほしい。

施策(事務事業)の進行管理チェックシート ⑦

点検評価の対象年度		平成30年度		別紙 4-(1)								
課 題		IV-1読書推進のための学習機会の充実				主管 部課		教育委員会				
施策名		IV-1-(1)各種講座、おはなし会等の主催事業の充実						生涯学習部 中央図書館				
事務事業名		10.地域の特性を生かした読書会、おはなし会、講座、上映会等の主催事業の開催										
施策 (事務事業)	施策の概要等	新しい知識を得る場の提供、そして図書館へ親しんで読書へのきっかけづくりを目的に各種講座、お話し会、展示会等を行う。 各種講座・・・わくわく子ども会、手作り教室 お話し会・・・各館月2～4回程度開催 展示会・・・慰霊の日関連の展示、テーマ別書籍の展示 講演会等・・・読書週間期間中の講演会等を実施 「おはなしボランティア養成講座」 学校や地域で、絵本、紙芝居等を読み聞かせボランティアとして活動している方を対象に、お話し会や読み聞かせを实践する上で必要な知識や技術を学ぶことをねらいとした「おはなしボランティア養成講座」 時間：2時間×5回 定員：30人 講師：外部講師3人										
		関連法令等 ○図書館法 ＜第三条第一項第六号＞ 読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を主催し、及びこれらの開催を奨励すること。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二 一 3 (五)多様な学習機会の機会 1 市町村立図書館は、利用者及び住民の自主的・自発的な学習活動を支援するため、講座、相談会、資料展示会等を主催し、又は関係行政機関、学校、他の社会教育施設、民間の関係団体等と共催して多様な学習機会の提供に努めるとともに、学習活動のための施設・設備の供用、資料の提供等を通じ、その活動環境の整備に努めるものとする。 2 市町村立図書館は、利用者及び住民の情報活用能力の向上を支援するため、必要な学習機会の提供に努めるものとする。										
実際の成果・効果等		講座・教室等の事業は例年どおり実施することができ、参加した多くの方に喜んでいただいた。また参加者へのアンケートから満足度や希望、感想などの把握を行うことができた。										
事業に要した経費等		おはなし会・工作教室等の講師謝礼金 5人 35,000円 おはなしボランティア養成講座謝礼 3人 36,000円										
指標名・目標値・実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値
	参加者へのアンケートによる満足度(平均点数)	4.3	4.69	4.72	特別おはなし会回数(年)	45	69	61	おはなしボランティア養成講座数	5	5	5
					定例おはなし会回数(月)	2	2.14	2.22				
					ブックトーク回数(年)	10	19	18				

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	5	A	5つの指標のうちすべてにおいて目標値を達成している。特別おはなし会とブックトークの実績値は目標値を大きく上回り、各館で趣向を凝らした取り組みを実施できた。
	今後の方向性	4		講座やおはなし会等への参加者の高い満足度を維持できるよう、今後も楽しい企画を実施し、さらにイベント参加者が図書館の利用に繋がるような工夫を行っていきたい。

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合評価	外 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	5	A	・ 目標値はすべて達成されており評価できる。 ・ すべての事業で満足した利用者が多いことは素晴らしいと思う。 ・ 各館よく取り組んでいると思う。このような催しをしていることを地域の小中学校などを通してもっと知ってもらって参加者が増えていくとよいと思う。
	今後の方向性	4		・ ホームページで、すべての那覇市立図書館で行っているイベントについて一目瞭然の頁があると参加人数も増えるのではないかな。 ・ アンケート結果による振り返り等により、さらに良いイベント作りに努めてほしい。幅広い世代に向けた、良い講座をすすめて欲しい。 ・ さらに読書推進に繋げるために、「おはなし会」をより多種多様な方法や内容にするための工夫ができないか？他の図書館の取り組み事例などを参考に、従来の企画やイベントにとられない斬新な企画も必要ではないかな。 ・ 夏休みの工作教室など、果たして図書館でやる必要があるのか分からない企画がある。ブックトークなどはもっと増えてもいいと思う。

施策(事務事業)の進行管理チェックシート ⑧

[illegible]

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	5	A	定例おはなし会の開催数、おはなしボランティアによる交流会の開催数とも目標を達成。おはなしボランティア団体・個人との協働による取り組みが強化・推進された。
	今後の方向性	4		交流会によるボランティア・職員間の連携強化を通じて、定例おはなし会、合同おはなし会の内容充実を図る。ボランティア活動の機会や場所の提供、おはなしボランティア団体の育成、団体会員の加入促進を支援し、協働による取り組みを推進していく。

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合評価	外 部 評 価 コ メ ン ト
	達成度	5	A	・ ボランティアが活発に活動している点が評価できる。 ・ 目標を達成し、おはなしボランティア団体・個人との協働による取り組みが強化・推進されたことは素晴らしい。 ・ 定期的に読み聞かせ会を実施しているのはありがたい。
	今後の方向性	4		・ 住民が図書館の活動に参画できるボランティアの取組は是非拡充・継続して行ってもらいたい。 ・ 今後も、ボランティア団体・個人・図書館職員間の交流を継続し、より良いおはなし会やボランティア団体への支援に繋がるよう取り組んで欲しい。 ・ おはなしボランティアと、各小学校のおはなしボランティアとの交流会など企画してみてもどうか。 ・ 那覇市民のニーズにあう幅広い様々な企画・イベントの提供や、さらに図書館不利用者に来館のきっかけ作りとなるような新しい企画など、館外ボランティアとの協働で内容を広げてほしい。 ・ 現場からは、館側とボランティア側の熱意に差があったり、各館の熱意差があって一部やりづらい、という声をきいた。どのような目的でどのようなことをしたいのか、ボランティアとしっかり連携を図ってほしいと思う。

点検評価のまとめ

那覇市のまちづくりの基本構想として策定された「第4次那覇市総合計画」の施策のひとつである「どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる」の実現に向け、2010年10月22日に「那覇市立図書館」運営の基本的な考え方（進行管理期間2010年度～2014年度）を策定した。

2010年度からは、指標・めざそう値の達成度等の点検評価を実施している。

2015年度に2019年度までの指標とめざそう値を新たに設定した。

達成度等の点検評価は2018年度で9回目の実施となる。

【評価の概要】

2018年度の評価結果は、内部評価においては、A評価が4項目、B評価が1項目、C評価が3項目であった。図書館協議会による外部評価においても、同様であり、全項目で評価が一致した。

ともにC評価だった施策は「I-1-(1)デイジー図書の充実」、「I-1-(2)資料・情報提供サービスの充実」、「I-3-(1)中学生・高校生の読書活動の充実」であった。

評価基準に基づく評価点の平均は、「達成度」が3.88点、「今後の方向性」は3.75点となった。

めざそう値を達成した指標が11、未達成は8つであった。

未達成だった指標のうち、前年度実績を上回った指標が3つであった。

未達成かつ前年度実績を下回ったのは「デイジー図書貸出数」「来館者数」「有効登録者数」「年齢別（13歳～18歳）の貸出冊数」「郷土資料受入（登録）冊数」の5つの指標であった。

＜総合評価一覧＞

施策の進行管理チェックシート名	内部評価	外部評価
①デイジー図書の充実	C	C
②資料・情報提供サービスの充実	C	C
③中学生・高校生の読書活動の充実	C	C
④郷土資料の充実	B	B
⑤図書館職員研修の充実	A	A
⑥図書館職員体制の充実	A	A
⑦各種講座、おはなし会等の主催事業の充実	A	A
⑧図書館関係団体（ボランティア団体等）との協働による取り組み強化	A	A

【評価の総括】

総合評価において、前年度の「A」評価から「C」評価になった「I-1-(1)デイジー図書の充実」と「B」評価から「C」評価になった「I-1-(2)資料・情報提供サービスの充実」の2つの項目については、より重点的な取り組みが求められる。

また、実績値やめざそう値の達成状況からは、概ね前年度実績を維持しているものと考えられるが、評価結果に関わらず、指標ごとの課題については、今後も改善に向けて取り組む必要がある。